



## 最も身近なファンの気持ちで

校長 関原 秀明

今、日本中で将棋が注目されています。

中学生プロ棋士藤井聡太四段の活躍が、火をつけたことは言うまでもありません。彼は、5歳で将棋に出会い、7歳で初段に、小学校時代の将来の夢は「名人をこす(越す)」ことだったそうです。いったいどのように教育すれば、彼のような子供が育つのか、興味のわくところですよ。ご両親は「子供のやりたいようにやらせる、親は温かく見守る」と話しているそうです。とは言っても、すべての子供が幼少時からやりたいことを見つけているわけではありませんし、やりたいようにやらせておくと、大人が望ましく思わないことに時間を費やしたりしないか心配でもあります。やはり、一部の天才と呼ばれる子供にだけあてはまることなのでしょうか。

2階廊下に設置した七夕飾りに、子供たちが、いろいろな願い事を書いています。

☆「ピアノが上手になりますように」  
「そろばんが1級になりますように」  
と、日ごろがんばっていることを伸ばしたいという願い事。

☆「プロ野球選手になれますように」  
「獣医さんになれますように」と将来の職業を意識した願い事。

☆「タイムスリップしたい」という、興味・関心(科学?歴史?)から生まれた願い事。

☆「家族がみんな健康で一年間過ごせますように」と家族を大切にしたいという心から来る願い事。



願い事には、その子なりの思いがあります。どの願い事も、それぞれのものが実現するかどうかは別にしても、自分の将来進むべき方向やそれを判断していく価値観の糸口に十分成り得るように思います。

全盲のピアニスト辻井伸行さんのお母さんは、息子さんに「よくこんな難しい曲が弾けるね!」「今の演奏にすごく感動したよ」「今度はあの曲が聴きたいな、楽しみにしてる」とよく声をかけていたそうです。意識してほめ言葉を並べるといよりも、ただただ息子さんのファンでありたいという一心だったそうです。

子供たちの願い事は来年には変わるかもしれませんが、そうだととしても、願い事をきっかけにして、ご家族が最も身近なファンとして、お子さんの興味、関心を探りながら、会話を楽しんでみてはいかがでしょうか。また、夏休みだからこそできる様々な体験に挑戦させてみてはどうでしょうか。「やりたいようにやらせる」と思えるものが見付かるかもしれません。子供自身も新しい自分を見付けることができるかもしれません。



# 学校生活の様子から

○第109回創校記念式を行いました。(6/17)



同窓生の浅川一義さんより『山登りを通して感じたこと』と題して記念講演をしていただきました。



この日は学校参観、引き渡し訓練も行われました。



○6年生が、新聞を使った授業に取り組みました。(6/22)



班ごとに一番のニュースを選んで発表しました。その後全員で話し合っ、五大ニュースを選びました。

このときの様子は、6月28日付北日本新聞に掲載されました。

北日本放送『いっちゃんKNB』の収録が行われました。  
(放映は8月下旬～9月の予定です。)

○5年生が、国吉小の自慢を伝えました。(7/11)

